

生活者としての外国人保護者のための学校プリント研究

李曉燕(九州大学大学院比較社会文化研究院 助教)

日本の学校教育においては「プリントの配布」が、学校と保護者との主要なコミュニケーション手段となっている。学校プリントの読解は、言語力を超えて、日本社会で生き抜く能力の範疇に入ると言える(李, 本田, 2015)したがって保護者への支援では「文字の理解力・読解力」の養成が、会話以上に重要である。しかし、従来、地域の日本語教室では、会話の指導・支援が中心とされてきたため、「文字を読む」ための支援に必要な教材があまりない。ことに「学校プリント」については、どのような種類のプリントが配布され、どのような内容が、どのような文章表現で書かれているかが日本語教育の視点から調査・研究されたことはほとんどない。そこで、学校配布プリントを収集し、その内容を分析して、日本語ボランティア団体が使用できる教材の基礎データをつくる本調査研究は必要性がきわめて高い。本研究は、小中学校で配布されるプリントから外国人保護者の日本語支援のためのデータベースを作成し、またその成果を受けて「学校配布プリントを読むための日本語教材」を作成することを目標とした。この目標を実現するために、以下の三つのステップで研究を進めてきた。1) 日本人保護者の主観的で暗黙的な読解ストラテジーを明らかにした。2) 学校プリントを客観視するために、「学校お便りコーパス」を構築した。3) 外国人保護者にとって学校プリントの難しいところを確認し、その対策の一環として、コーパスを利用し分析した。以上の分析結果に基づき、教科書作りの準備を進めてきた。

日本人保護者は、小さい頃から学校プリントになじみがあり、当たり前で読むストラテジーを持っていると考えられる。しかし、そのような暗黙的にできたストラテジーは、外国人保護者に伝えるために明示的な知識に変換することが必要である。本研究は、まず、日本語母語話者による読解ストラテジーを明らかにした。2013年10月から2015年3月までの福岡市U小学校で配布されたプリントを集め、以下の三つのステップで分析した。学校プリントの①発行元による種類の整理、②内容と形式上のポイントの分類、③タイトルの性質の整理、という順序である。学校プリントの分析結果に基づき、アンケート調査を作成し、日本人保護者を対象に実施した。学校プリントに関する日本人保護者の暗黙的なストラテジーを、プリントの項目・内容・形式、子ども・親との関係性、および紙質の視点から、プリントの読む方法・読み飛ばす方法を明らかにした。上記の研究成果は国際学会EJHIB(国際語としての日本語に関する国際シンポジウム)で発表した。

次に、外国籍の保護者の日本語学習支援のためのデータベース「学校お便りコーパス」を作成した。このコーパスは、2012年から2015年にかけて、神戸市、大阪市、福岡市、福井市の4つの自治体から延べ810枚(総文字数880,869字)の配布物を収集し、構築したものである。このコーパスでは、収集した810枚のプリントを手作業で「総合」「食育」「保健」「安全」の4つの領域に分類されています。本コーパスに対して、McCab0.96及びUniDic2.1.2を用いて形態素解析をおこなった。短単位による形態素解析結果に基づき、語数を集計した。学校お便りコーパス全体の延べ語数は471,212語であった。また、他の日本語教師や研究者にも活用してもらえるよう、ウェブサイト(<http://lixiaoyan.jp>)を作成して、学校お便りコーパスを公開している。

続いて、日本語能力の中級レベル以上の外国人保護者を対象にインタビューを実施したところ、学校プリントの読解において複合名詞の理解がもっとも困難であることがわかった。学校お便りコーパスにある17193の複合名詞から、筆者自身が生活者としての外国人保護者の立場から、学校の文脈から離れると意味が分からない、すなわち「学校カルチャー語彙」の複合名詞を50抽出した。次に九州大学において学校カルチャー語彙の理解度について調査を行った。N1の日本語能力を持っているにも関わらず、留学生の正解率が低い点は注目に値する。最後、言語学と文化の視点から学校カルチャー語彙の理解の難しさを分析した。その研究成果は、第22回言語処理学会で発表した。

さらに、2016年2月に行なわれた中東欧日本語教育研修会にて、ヨーロッパ11カ国から参加する日本語教員を対象に、学校プリント配布実態について調査を実施した。ヨーロッパ各国では、日本と同じような内容の学校文書とメールで伝達していることがわかった。コミュニケーションツールは違うが、諸各国で学校文書の重要性を確認できた。

これまでの研究で明らかにした読解ストラテジーを反映するように、コーパス分析の手法により語彙や文型の使用頻度や共起関係を利用して教材の内容を作り、そして日本の学校文化を反映する複合名詞を詳しく説明する教材を作る準備を続けている。今後の課題は、学校プリントに加えて小中学校の校則など「学校文書」をデータベースに作り、それを読解するための教材を作ることである。教材の雛形になる内容はウェブサイトで開催する予定である。興味を示してくれる出版社が数社あるので、使用感想と意見をもらった後は書籍としてまとめて出版することを計画している。